子どもとともに

得意の知識生かし活躍

校長室から　中

愛知県小牧市小牧中

ことし九月、愛知県小牧市の小牧中学校に「教室ICTトラブル対応部隊」が発足した。隊員は各クラスから志願した約二十五人の生徒たち。リーダーは二年五組の手塚敦司君だ。

学校では、コンピューターや情報通信ネットワークを使うICT教育が進む。小牧中でも九月から大型ディスプレーやノートコンピューターが各教室に入った。隊員たちは、無線での立ち上げがうまくいかないときに調整したり、授業に入る前に、デジタル教科書をすぐ利用できるよう準備をしたりする。

手塚君にリーダーを頼んだのは、玉置崇校長だった。「彼は、ICT機器の詳しさはほぼ校内一と言っていい」と話す。

最初に手塚君が校長室に来たのは昨年九月。玉置校長が自宅の実物投影機を授業で使えないかと持ち込んだのがきっかけだった。うまく表示できず、教師も頭を悩ませていたとき、原因を突き止め、堂々と校長に説明した。この九月も頼まれれば教室を回り、設定のトラブルを直していた。

手塚君の行動に、玉置校長や担当の教師が部隊の結成を思いついたのだ。「専門にトラブルと向き合ってくれる生徒を置いてみよう」。さらに「デジタル教科書の準備も役目として取り組んでもらおう」と決まった。

教室のコンピューターを調整しながら玉置校長と話す手塚敦司君（手前）＝愛知県小牧市の小牧中で

白羽の矢に「正直、僕でできるかなあと思ったけれど、すぐ絶対やってやるぞという気持ちに変わった」と手塚君。九月中旬には、隊員たちを集めて勉強会を開くことになり、講師になった。

トラブルが起きれば、隊員から相談を持ち掛けられる。原因を探り、改善策もアドバイスする。「やりがいを感じます。パソコンを直すだけでなく、僕も人に伝える力を磨いていける」と言う。

最近はトラブルも減った。何より、アドバイスした隊員が自力で直せるようになり「〝やったあ〟という感じ」と実にうれしそうだ。

玉置校長は、隊員の中に他にもパソコンが得意そうな生徒がいることにも気付いた。「いろいろな〝得意〟を持つ生徒がいることをあらためて感じた。一緒に学校を運営して、その力を引き出せば、生徒たちの可能性もさらに広がる」と語る。

「もっと知識を吸収し、後輩に確実に引き継ぎたい」と手塚君。子どもを輝かせる場所が、ここにもある。（川本公子）